

極秘

蒙人高第五〇七號

陸軍中將阿部規秀戰死ニ關スル報告

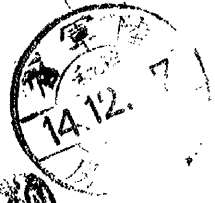
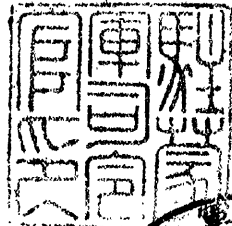
昭和十四年十一月十八日

駐蒙軍司令官 岡部 直三郎

陸軍大臣 畑俊六殿

一 陸軍中將阿部規秀ハ昭和十四年六月一日歩兵第一旅團
 長ヨリ獨立混成第二旅團長（當時少將）ヲ拜命シ張家
 口ニ赴任スルヤ錫林郭勒、察哈爾ノ兩盟及ヒ察南地區
 並ニ晉北地區ノ一部ニ亘ル區域ノ安定確保ニ任シ常ニ
 前線ニ活躍シテ郭其峯部隊共產軍匪賊ノ討伐肅正ニ任
 スルト共ニ北方外蒙古方面ニ對スル作戰ノ研究、地形

0450



ノ偵察、防備施設ノ實行、軍隊ノ訓練育成ニ眞ニ誠私奉公ノ誠ヲ致シ東奔西走全ク寧日ナク其ノ功績大イニ揚リ擔任地區ノ雜軍匪賊ハ殆ント影ヲ没シ其邊境ニ至ル迄政令徹底シ人民ヲシテ安居樂業セシメタリ

ニ昭和十四年十月二日陸軍中將ニ昇任セララルルヤ益々精勵格勳擔任地域内ニ一賊一匪ノ存在ヲモ許ササル意氣ト決意トヲ以テ愈々任務ニ邁進シ昭和十四年十月二十五日侍從武官ノ御差遣ノ光榮ニ浴シ聖旨令旨ノ傳達ヲ受ケ翌二十六日現地ニ赴キ親シク軍隊ヲ指揮シテ勇猛果敢ナル討伐ヲ實行シ遂ニ戦死スルニ至レリ

其情況別紙ノ如シ

雁宿崖黄土岑附近ニ於ケル戦果ニ關シテハ目下調査中ナルモ今日迄得タル情報ヲ綜合スレハ敵ニ與ヘタル死傷概ネ一千前後ナルカ如ク我カ損害戦死約百員傷約百十名ニ達シ山砲二門歩兵砲二門重機關銃三輕機關銃六等ヲ紛失若シクハ破壊セリ之等損害ノ大部ハ雁宿崖附近ニ於ケル辻村部隊（歩兵二中隊砲兵一小隊）ヲ差幹トス一ノ蒙リタルモノニシテ該部隊ハ約十倍ノ敵ニ約一晝夜包圍セラレ彈藥ヲ射盡シ數次ノ肉彈戦ヲ繰返ヘシ爲メニ損害藏出（戦死八三員傷四九一）輪實ナル數ハ目下調査中ニシ兵器ノ如キハ分解破壊埋没等ノ手段ヲ講セルモ一部ハ敵手ニ歸シタルモノアリテ目下搜索中

特賞叙位ハ
見ル外空期
シテテ
シテテ
シテテ

詔
議
難

集中ニシテ既ニ其一部ハ整理中ナリ

人事處選ニ關スル意見

(1) 阿部中將ハ戰場ニ在リテ敵彈ニ斃レタルモノニシテ

武人ノ本懐ナルヘシト確信スルモ其生前ノ拔群ナル

武功ニ照シ事情之レヲ許セハ陸軍大將ニ親任ノ詮議

ヲ希望ス

(2) 阿部中將ハ本年十月既ニ定期敘勳ノ年限ニ到達シ既

ニ上申済ノモノナルモ戰死セル爲メ一時打切リトナ

ル模様ナルモ行賞トハ關係ナク此ノ際敘位敘勳ニ關

シ特別ノ詮議アリ度ク切望ス

報告先 陸軍大臣、總軍司令官、方面軍司令官

阿部部隊長ノ奮戦

察南地區ヨリ完全ニ掃蕩セラ
 レタル第八路共產軍ハ涿源靈邱
 南方長城線内嶮峻ナル山地ニ蟠
 踞シ察南地區ノ擾乱並ニ良民畜
 類ノ拉致食料日常品ノ掠奪ニ出
 没シ治安ノ確立ヲ妨害スルコト

大ナリシヲ以テ阿部部隊長ハ之
レカ徹底的討伐ヲ企圖シ十月二
十六日張家口ヲ出發先ツ靈邱南
方山地ニ猛威ヲ振ヒアル共產軍
第百二十師ヲ掃蕩シテ之ヲ西南
方ニ潰走セシメ赫々タル戦果ヲ
収メ引續キ十一月三日ヲ期シ凍

源南方地區ニ蟠踞スル共產軍獨立第一師及同獨立第四師並ニ其軍事政治諸機關ノ根本的覆滅ヲ企圖セリ
 附近一帯ノ地形ハ北支ニ稀ナル嶮峻ナル山地帯ニシテ岩石突兀トシテ聳エ道路殆トナク急坂胸

ヲ突キ支那馬驢馬以外ハ通行ヲ
許サ、ル所多ク部隊長以下徒步
跋涉前進シ先ツ走馬駟鎮附近ヲ
掃蕩中雁宿崖方面ニ派遣シアル
辻村部隊優勢ナル敵ニ遭遇シ攻
戦力鬪シアルノ報ニ接スルヤ諸
隊ト共ニ自ラ道ヲ轉シテ該方面

二集中合撃ノ命令ヲ下ス壯者ト
 雖モ歩行極メテ困難ナル十里ノ
 嶮道ヲ終始部隊ノ先頭ニ在リテ
 辻村部隊戦場ニ急進シ親シク第
 一線ニ臨ミテ敵ヲ撃退シ次イテ
 果敢ナル追撃ニ移リ途中敵ノ抵
 抗ヲ排除シツ、五日夜張家坊六

日敵ノ團本部所在地タル司各莊
ヲ掃蕩續イテ黄土嶺附近ノ敵重
要根據地ヲ衝キテ優勢ナル敵ヲ
撃破シ七日河北省易縣上庄子附
近ニ前進スルヤ敵ハ後方部隊ヲ
續々第一線ニ増加シ其兵力約三
千五百ニ達シ到ル所ニ出沒シテ

執拗ナル抵抗ヲ行フニ至レリ茲
ニ於テ部隊長ハ自ラ第一線ニ進
出シテ敵情地形ヲ具ニ視察シ敵
ヲ西南方ヨリ席捲スルノ方策ヲ
樹テ命令下達ノ爲メ上庄子南方
約千米ノ一軒家ニ到ルヤ俄然敵
迫撃砲彈數歩ノ間ニ落下炸裂シ

九腹部及兩脚ノ十數個所ニ致命
 的重傷ヲ負ヒタルモ勇猛果敢ナ
 ル部隊長ハ之レニ屈スル事ナク
 第一線ノ戦闘ヲ督勵シ更ニ爾後
 ノ戦闘指導ニ關シ之レヲ部下ニ
 指示シ遂ニ負傷後僅カニ三時間
 餘即チ七日午後九時五十分終始一貫部隊

長タルノ職責ヲ執リツ、戦死ヲ
 遂ケタリ
 而シテ部下諸隊ハ克ク部隊長ノ
 遺志ヲ継キ力戦奮闘八日午后敵
 ニ殲滅的打撃ヲ與ヘ之ヲ潰走セ
 シメタリ
 部隊長ハ性温厚篤實ニシテ率先

垂範常ニ躬ヲ以テ部下ノ教育訓
 練ニ從ヒ部下ニ對スル温情ハ慈
 父ノ夫レノ如ク而カモ事ニ臨ミ
 果敢断行シ敵ニ當ルヤ豪毅勇猛
 ニシテ真ニ典型的武將ナリ身ニ
 重傷ヲ負ヒ再起不可能ニ陥ルモ
 更ニ屈セス一言ノ私事ニ及フコ

トナク最後迄戦闘ノ指導爾後ノ
 處置ニ萬全ヲ盡シ部隊長ノ職責
 ヲ執リツ、瞑目ス其壯烈ニシテ
 責任感ノ熾盛ナル能ク鬼神ヲシ
 テ泣カシムルモノアリ蓋シ部隊
 長ノ忠膽義肝ハ軍人ノ龜鑑ト謂
 フヘキナリ

阿部部隊長ノ略歴

明治四十年十二月二十六日

任歩兵少尉(第十九期生)

歩兵第三十二聯隊附

第八師團副官

第十八師團參謀

仙台陸軍教導學校學生隊長

歩兵第三十二聯隊長

任陸軍少將歩兵第一旅團長

現職

任陸軍中將

戰死

昭和十二年八月

昭和十四年六月一日

昭和十四年十月二日

昭和十四年十一月七日